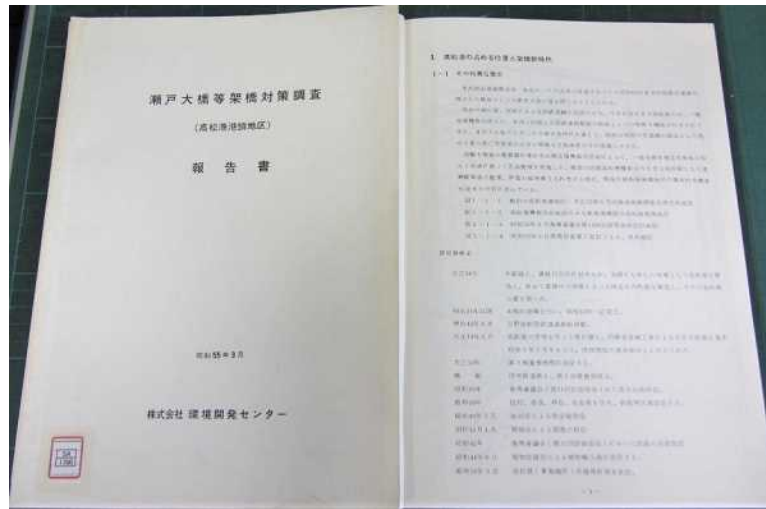


瀬戸大橋等架橋対策調査(高松港港頭地区)報告書 (昭和55年(1980)3月)



昭和54年度高松市の委託調査である「瀬戸大橋等架橋対策調査(高松港港頭地区)」の成果をまとめたもの。この資料には昭和50年までの高松港の略史が記述されており、明治31年(1898)~41年の本格的な修築、明治43年6月、宇野高松間鉄道連絡船就航、大正11年(1922)3月から高松港の管理を市から県に移し、国(内務省)直轄工事による大正大改修が昭和3年(1928)3月まで行われたことが記されている。宇高連絡船廃止後の高松駅の在り方として瀬戸大橋経由の「備讃線」のターミナルとしての存続が期待されるが、交通体系の変化は年間700万人に上る乗継客や国鉄貨物駅の中継ぎ業務などへ影響を与え、港頭地区における都市経済について地盤低下が懸念されるとしている。

(SA1700・1701)